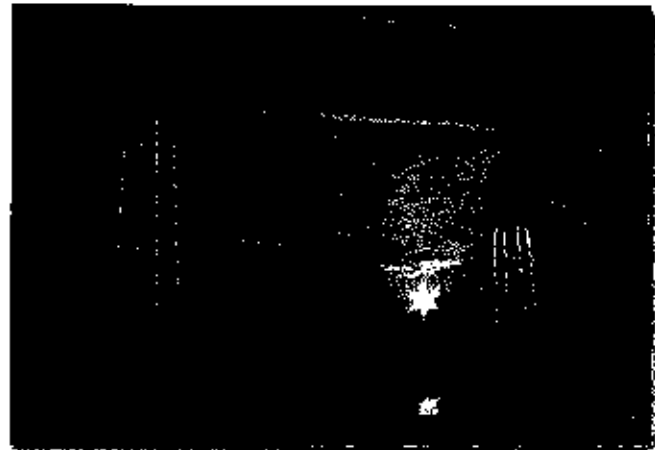


《基本理念》

信頼関係を大切にし、
 地域に根ざした
 良質な医療を提供します。



天達寺偈 (みやき町一久留米市間)

一地域の中核的病院として《現状と将来計画等について》

1. 現状及び将来計画について



事務部長 木村 喜美生

当院の現状は、「信頼関係を大切にし地域に根ざした良質な医療を提供します」の基本理念の基、政策医療（成育医療、重症心身症児（者）医療、呼吸器疾患（結核含む））とその他医療（内分泌代謝疾患（糖尿病）、消化器疾患、循環器疾患、整形外科疾患、小児科疾患、リハビリテーション）の主たる診療機能の充実に向けて取り組んでいるところであります。

将来計画（基本構想）としましては、当院が佐賀東部医療圏の地域医療を担い、地域の中核病院として発展してゆくためには国立病院機構が示しております「質の高い医療の提供」、「安全な医療の提供」、「安定した病院経営」、「臨床研究の充実と情報発信」を強化し、充実することが大切であります。そのためには「地域連携の強化」、「センター化構想」、「救急医療の充実」、「臨床研究の推進と情報発信」を掲げ、地域から信頼される医療、更には地域医療支援病院の承認を目指しているところです。

また、ハード面の充実という観点からは、一般病棟並びに重症心身障害者病棟等も老朽化していることから、現在、病棟建替計画も進めているところであります。

2. 病棟建替計画について

病棟建替につきましては、これまでに老朽化等も踏まえ種々検討を重ねていたところでしたが、平成21年度補正予算

目次

*題字「ひがしさが」 平野 長照 名誉院長 書

- 地域の中核的病院として..... 1・2
- がん看護エキスパートナース研修を受講して..... 2・3
- 理学・作業療法士特定技能施設派遣研修に参加して..... 3
- 産度・重症児（者）医療・保育（基礎）講習会に参加して..... 4
- 平成22年度佐賀県保健師助産師看護師実習指導者講習を受講して..... 4
- 「感染管理室」が誕生しました..... 5
- 職場紹介..... 5

- サービス向上委員会の発足にあたり..... 5
- 健康つ祭..... 6
- 地域医療連携室のご案内..... 7
- 行事報告..... 8・9
- 人事異動..... 9
- 医事総計..... 10
- 外来診療担当医表..... 11
- 病院アクセスマップ..... 12
- お知らせ（地域医療研修センター）..... 12

（国立病院機構出資金）の交付について、当院においては重症心身障害者病棟、療育訓練棟等の助成が認められる見込となったことに伴い、これまで計画していた重心病棟建替計画に加え、一般病棟等も含めた全体的な病棟建替を計画することとしました。そこでまずは病棟建替検討委員会を設置し、その委員会の下に実働部隊としてプロジェクトチーム、コアチームを設け、可及的かつ効率的な準備・検討に入り進めることとしました。進捗状況は、22年3月に設計の入札を行い設計業者が決定し、次に一般病棟等にかかる償還計画における書類等を作成し、本部申請を行い、22年7月には建物整備の承認を得て、現在（22年9月）は基本設計（案）を機構本部へ申請しているところであります。

新病棟完成後の病床数等を含めたところでの計画は、一般病棟等は4階建てとし、1階はユニット化病棟50床（結核30床、一般16床、感染症4床）、2階は検査・リハビリテーション棟、3階は一般病棟60床（整形外科、循環器内科、糖尿病内科）、4階は一般病棟60床（外科、呼吸器内科、消化器内科、小児科）の計画としています。重症心身障害者病棟は、2階建てと1階建ての2棟とし各55床の3病棟を計画しています。更に療育訓練棟も新築し、新重症心身障害者病棟・新療育訓練棟と現在のディケア棟とを繋げ、効率的かつ多目的にも運用できるよう計画しています。

現在の計画からすれば、一般病棟が23年12月頃、重症心身障害者病棟等が24年12月頃の完成を予定しています。また、運用病床数は現在360床（一般146床、重心160床、感染症4床、結核50床）ですが、新病棟完成後は335床（一般136床、重心165床、感染症4床、結核30床）となり、25床の減少（結核△20床、一般△10床、重心5床増）となりますが、現状から勘案して、より効率的・機能的な病床運営・管理が図られるものと思慮しております。

3. 地域医療支援病院取得について

当院は、佐賀東部医療圏における中核的病院としてその役割を果たすべく、病・病連携、病・診連携の推進に努めているところであり、開放型病院としてもその機能を充実させているところです。また、医療ニーズに応じた急性期医療に対応するため各診療科をセンター化し、充実を図ってきているところです。

このようなことを含め検討しました結果、今回、医療法に定められた地域医療支援病院の各種要件を具備（地域医療支援病院紹介率、逆紹介率の基準達成（紹介率60%以上、逆紹介率30%以上）はもとより、その他医療法に定められております地域医療支援病院としての諸々の要件をクリアしております。）していることに加え、鳥栖三養基医師会、神埼市医師会のご推薦も受けて、今後更なる地域医療の充実を図るため、地域医療支援病院の申請を行いました。

更に、結核医療では佐賀県結核医療の最終拠点施設として、また、第二種感染症の指定医療機関としても受入体制を常に整えており、一般の救急医療以外の急性期医療（結核・感染症における救急医療）におきましても、地域医療における支援（役割）も十分果たしているところであります。

従いまして、これらの佐賀東部医療圏における当院を取り巻く状況を鑑み、この度地域医療支援病院として申請し、承認を得て、その役割を更に果たしていく所存であります。

このように、当院はこれからも佐賀東部医療圏における地域の中核的病院としての役割を果たしていくために、これまで以上に地域連携の強化、救急医療の充実、情報発信等を行い、地域から信頼される医療を引き続き提供し、地域ニーズに更に寄与していかなければならないものと考えております。また、ハード面の充実（病棟建替計画）も図り、患者様が安心して快適な療養環境を提供することが最も大切なことだと考えております。

今後とも地域の先生方、医師会、大学等からのご支援・ご協力を賜りますようお願い致します。



がん看護エキスパートナース研修を受講して

3病棟 永田 真由美



研修は6月21日～7月2日まで九州がんセンターで行われ、①がん看護に必要な専門知識と技術を統合しがん看護実践の役割モデルになれる看護師を育成する②がん看護のEBNを実践し患者・家族・スタッフへの指導（教育）できる能力を養うことを目的とした研修でした。研修内容は、講義（腫瘍学・心理精神的支援・がん患者や家族の理解と援助・チーム医療）・グループワーク・病棟実習と、がん看護に必要な知識など多くを学ぶものでした。

今回、研修受講にあたり、看護師として患者の不安（治療・予後）に対する看護や疼痛緩和や患者家族の不安・苦痛に向き合い、看護が提供できるようになりたいと課題をもち受講しました。

がん患者の苦痛は、全人的苦痛（トータルペイン）であり、身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛・霊的苦痛（スピリチュアル・ペイン）があり、看護師はそれぞれの苦痛を知り看護していくことが必要です。身体的苦痛では、疼痛緩和は不

可欠であるため、痛みのメカニズムのアセスメント・治療・痛みへの看護介入が必要です。そのために、がんの痛みの特徴から患者の痛みの治療目標に対し看護介入し、痛みに対し根拠に基づいた看護を実践することを再認識しました。精神的苦痛・霊的苦痛（スピリチュアル・ペイン）に対しては、患者の思いを知り、患者と共に考えていくことが必要であり、患者が自分らしく生きることが出来るように患者の気持ちに寄り添う看護を実践したいと思います。また、がん看護では、患者だけでなく、その患者を支える家族への看護も必要です。患者を支える家族もケアの対象であり、看護師は患者を支える家族と信頼関係を築き、共通の目標を持った協働者であることを認識し、家族看護を実践したいと思います。

今後、研修で学んだ知識を生かし、がん患者が「どうなりたい」「どうしたいか」を考え、患者や家族に寄り添う看護実践をしていきたいと思ひます。



理学・作業療法士特定技能施設派遣研修に参加して

研修場所：福岡東医療センター

リハビリテーション科 言語聴覚士

研修期間：平成22年7月14日～16日

江頭 幸子・古賀 翔



「摂食・嚥下障害者の問題を呼吸・姿勢保持を含めた多角的視点からとらえ、疾患別の対応の仕方を学ぶ」ことを目的として、毎年、福岡東医療センターで開催されています。参加対象外ではありましたが、他職種への伝え方を学ぶことと九州ブロック内の施設職員との人脈作りを目的に、無理を言って参加させていただきました。摂食嚥下の解剖と生理、評価、各疾患への対応などを、医師やリハスタッフなど多職種の講師陣による講義を聴講することができました。摂食・嚥下障害に限らずですが、チームアプローチは欠かせず、多職種との共通理解と連携があってこそその実践であり、自分たちの知識・技術向上は勿論、周囲への啓蒙と関係作りがまだまだ不十分であると実感しました。

紙面を借り、今年度から開設しました言語聴覚療法の紹介をします。
言語聴覚士は「言語」「聴覚」「嚥下」などの障害を持つ方を支援する職種です。
コミュニケーションの障害には以下のような症状があります。

<p>失語症</p> <p>聴いて理解する・話す・読む・書く・計算することが難しい</p>	<p>音声障害</p> <p>声が小さい、出にくい、かすれる</p>	<p>構音障害</p> <p>発音がはっきりしない</p>
<p>聴覚障害</p> <p>聴こえにくい</p>	<p>言語発達遅滞</p> <p>同年齢の子どもに比べてことばの発達が遅い</p>	<p>摂食・嚥下障害</p> <p>よくおせる、飲み込みにくい のどに違和感がある</p>
<p>ほかにも、記憶・注意・行動などに問題があり日常生活に支障をきたす高次脳機能障害 読み・書き・計算などが難しく、なかなか学習が定着しにくい学習障害 落ち着きがない・集団行動が難しいなどの自閉症や広汎性発達障害 など</p>		

全国には約1万7千人の言語聴覚士がおり医療・保健・福祉・教育機関で活躍しています。佐賀県の人口約80万人、県内の言語聴覚士約140人、人口一人当たりに対する言語聴覚士数は充たしてきていますが、地域・領域においては十分とは言えません。東部地区の中核となるよう充実を図っていきたく考えていますが、まずは院内から。今後、研修会開催などによる啓蒙活動、入院患者様の訓練の充実、ビデオX線嚥下検査（VF）の体制作り、外来訓練の開始など準備をすすめていく予定です。

コミュニケーション、摂食・嚥下、学習などに関する、ご質問・ご相談がありましたら、是非、お声かけください。また、「こんなことして欲しい」などのご要望、忌憚のないご意見もお待ちしております。どうぞ宜しくお願い致します。



重度・重症児(者)医療・療育(基礎)講習会に参加して

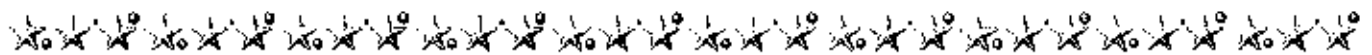
11病棟 西木 理絵



私は重心病棟に配属になり、仕事をしていく中で重心のことを自分なりに勉強してきました。そんな中で重心は特殊で、勉強するにもあまり資料もなく限りがありました。この度、4日間の重度・重症児(者)医療・療育(基礎)講習会に参加する機会を頂きました。今回の講習会は小児に重点を置かれた講習会でした。東佐賀病院の重心病棟は高齢の患者様の方が多いため、講習会で得た学びをそのまま活用できるわけではありませんが、重度・重症児(者)の小児科、内科、整形外科等からの医療的諸問題、ポジショニング、呼吸法、排痰法、摂食、家族支援等、重心の中でも数々の分野の講習会を受けることが出来、たくさんの学びがありました。

重心は一般病棟とは違い、患者様にとって入院生活とは、まずは生活の場であり、次に医療を受ける場です。生活の場が最初に重要とされる分、患者様、一人一人の人格を尊重し、個別的な部分から理解し、接していくことが大事だと思いました。言語的コミュニケーションができる患者様は少なく、反対に上手に伝えることが出来ない患者様が多数です。患者様からの訴えも啼泣だったり、緊張だったりさまざまです。私達スタッフは患者様が上手に訴えることが出来ない分、小さな変化でも見逃さず、気持ちに寄り添い、密に観察を行い患者様の訴えを汲み取りケアを行っていくことが必要だと感じました。

今回の講習会で学んだことを日々の看護に生かし、看護ケアの向上に努めていきたいです。そして患者様に今まで以上に質の高い看護を提供出来るように努力していきたいと思えます。



平成22年度佐賀県保健師助産師看護師実習指導者講習を受講して

14病棟 森田 栄介



6月14日より8月9日まで、佐賀県主催の実習指導者講習に参加させていただきました。

講習には、佐賀県内外より43名の参加があり、様々な施設や年齢、立場の方々がおられました。全員が共に机を並べ、学びを深めることが出来ました。

講習内容は大きく分けて前半が講義で、後半がグループワークというスタイルでした。

講義では、教育方法や指導の実際について、また学生の年齢と発達段階に応じたコミュニケーション方法について等、実習指導者としてだけでなく、人間としてのスキルアップが出来るような盛りだくさんの内容で、学びを深めることが出来ました。また後半のグループワークでは、数人で実習指導要綱を作成するという、大変ですがとても意味のある作業を実践することができました。

私が、この研修でもっとも印象深かったことは、先に述べたグループワークでした。ワークは、7~8人が一つのグループとなり、急性期や慢性期、または精神科などいくつかのパターンに別れ、それぞれにあった指導要綱を作成します。その中には、実習の目的・目標から三観、月案・週案などいたるまで、多大な内容があり、その一つ一つ、一文一文を自分達で考えなくてはならないものでした。時には言葉の使い方や文の内容について数時間を話し合いで費やしたり、また時にはグループ内で意見の食い違いにより険悪なムードになったり、それは大変な作業ではありましたが、研修生それぞれが自らを見つめなおし、相手の立場に立って考えることで、他のメンバーの意見にも耳を傾けることが出来るようになりました。おかげで、グループ全員がまとまり、納得できる指導要綱を作成することが出来、とても感激しました。

このように、この研修では「実習指導者として」という部分はもちろんのことですが、それよりも、「人間として」という非常に大切な部分を学ばせてもらったような気がしてなりません。自分を見つめ直すことで、他人を否定せず受け入れられるようになれば、型にはまった自分の考えや思いに頼ることなく、様々な視点から物事を見られるようになるのではないかと思います。そしてそれが結果的に実習生に対しても、また病棟スタッフに対しても、互いが前進できるような良好な人間関係を築くことが出来るのではないかと考えます。今後はこの学びを活かし、実習生や後進の育成に力を注いでいきたいと思えます。

今回、この研修に参加するにあたり、許可してくださった看護部長はじめ、病棟師長、そして快く送り出してくださいました病棟スタッフの方々に深く感謝します。ありがとうございました。

「感染管理室」が誕生しました

感染管理認定看護師 秋永 優子



認定看護師制度は1997年に発足以来、現在「がん性疼痛看護」「手術看護」「皮膚排泄ケア」など21の分野があります。近年の医療の高度化・専門化や国民の健康に対する高い関心に対応できるように、今後も多くの種類の認定看護師が誕生する予定です。

私は本年度に「感染管理認定看護師」の資格を取得して、5月より感染管理室に勤務しています。主な仕事は、東佐賀病院における医療感染の予防と管理の実践です。病院は様々な感染症の方々を受け入れる施設であり、特に当院は2類感染症指定医療機関ですので、結核や重症なインフルエンザに罹患した方々を受け入れて治療を行う使命があります。

感染症に対する特別な対応・予防技術・用具・設備を整備して、安心して治療を受けていただけるよう努めています。感染の予防においては、7月より当院近隣の公民館や保健センターで「感染予防におけるミニ講座」を定期的実施しています。「感染予防は家庭から」をキーワードに、理解して頂けるよう図や説明のパンフレットをお渡しして、食中毒やインフルエンザなどの情報を発信しています。講座後に質問や貴重なご意見を頂き、次の講座に向けた課題を考えて前進できるように努めています。地域の皆様のご健康を願い、またご入院中の方々の健康回復に向けて、誕生間もない感染管理室ですが大きく成長できるように頑張ります。



3病棟の紹介

■ 看護師長 秋永 優子

3病棟は、呼吸器内科・外科（消化器・胸部・乳腺）の混合病棟で、呼吸器内科は主に肺炎などの治療を多く行っています。また在宅酸素療法（HOT）の導入目的で入院される事もあります。外科は4月から副院長の北島先生、胸部外科の辻先生を迎え、治療が充実してきており、最近では聖マリア病院・久留米大学病院

からの紹介で、癌の化学療法目的で入院される方も増えてきました。スタッフもがん看護研修に参加し病棟での勉強会を行い、がん看護に必要な専門的知識・技術を習得し、実践能力の向上を目指しています。

3病棟は救急外来も担当しているため、常に慌ただしいイメージはありますが、医師・看護師の連携はとても良く、スタッフのチームワークも抜群で活気あふれる病棟です。



サービス向上委員会の発足にあたり

委員長 穴井 美香



今年度より看護部に新しくサービス向上委員会が発足しました。

目的は「地域住民に支持される病院を目指し、患者満足度の向上を図る」です。昨年の接遇研修を活かしながら看護専門職としての身だしなみと思いやりのマナーに取り組んでいます。東佐賀病院は建物は古いですが駐車場も広く看護師さん達が優しく温かく気持ちがいい。と病院を訪れる人達に感じてもらいたいと思い、いま私たちにできる小さな一歩を踏み出しています。

7/29ふれあい看護体験で私たちにできるおもてなしをしました。高校生の笑顔と声に感動し達成感を感じています。現在は10/23の『健康っ祭』に向けて新たなおもてなしを探しています。

「ここにあなたを見ている看護師がいる」をキャッチフレーズに、その人に響くことを追求めてメンバー12名と楽しく頑張っていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

けんこっさい
健康まつり 2010

体で感じるふれあいと健康

日時/平成22年
10月23日(土)
10:00~14:00

お問い合わせ先
 ☎0942-94-2048【管理課】

- ①講演「糖尿病をぶっ飛ばせ」
 12:30~13:30 講師：内科医長 合村 洋一
- ②医療相談コーナー
 日頃気になっていることはありませんか。
- ③健康相談
 ・血圧測定 ・体脂肪測定
- ④健康ですか(ためして健康?)
 ・流水手洗い、アルコール手洗いの実際
 ・フットケア 足の点検 ・マンマ検診
- ⑤栄養相談
 ・食事の相談 ・減塩みそ汁の試飲
- ⑥測定コーナー
 ・肺機能(肺年齢)測定 ・脂質系項目の測定
- ⑦放射線コーナー
 ・骨密度測定 ・CT検査画像等の展示
- ⑧性格、ストレス度チェックコーナー
- ⑨リハビリテーション関連健康相談
 ・関節症、腰痛症、糖尿病等の運動療法や体操指導
 ・言語や摂食の相談
- ⑩医療保険・介護保険・福祉制度に関する相談

- ⑪キッズコーナー
 ・エアートランポリン
 ・折り紙、絵本、紙芝居
 ・おもちゃコーナー
- ⑫ハサ
 手にとってお確かめください。
 早い者勝ち!?
- ⑬イベントコーナー
 ・消防車展示 ・煙体験
 ・AED応急処置の実演、指導
- ⑭販売コーナー(ジュース、ポップコーン)

お近くの皆様
 お問い合わせのうえ
 ご来場お待ち
 申しあげます。



地域医療連携室のご案内

《ご利用方法について》

1. ご紹介いただく場合について

「診療情報提供書（当院様式以外のものでも結構です）」に必要事項をご記入いただき、ファックスにてご連絡下さい。診療情報提供書をすぐに送信いただけない場合は、直接、新患担当医師又は各診療担当医まで電話にてご連絡下さい。その場合の診療情報提供書は、できるだけ患者様が受診される日時までに、地域医療連携室までFAXいただきますようお願い致します。

2. 緊急時のご紹介について

緊急を要するご紹介は、直接各診療科医師へご連絡下さい。

患者様の症状などを医師同士でご確認していただくことにより、受入体制、各種検査室の手配など迅速に対応できます。また、救急搬送によるご依頼の場合には、救急当番医師が対応致します。

3. 患者様へのご説明について

受診当日に「予約案内書」「診療情報提供書」「健康保険証」をご持参のうえ、外来受付窓口へご提出いただきますよう説明をお願い致します。

4. ご報告について

診療結果につきましては、地域医療連携室または担当医から、ファックス若しくは郵便にて速やかにご報告申し上げます。なお、報告がないようでしたら地域医療連携室までご一報下さい。

5. 入院のご依頼について

入院をご希望の場合でも、いったん当院の医師の診察後に決定させていただきますので、ご理解の程お願い申し上げます。なお、緊急の場合は直接各診療科へお電話いただき、担当医にご相談いただけますようお願い致します。

6. その他

お問い合わせ、ご不明な点やご意見ご要望等がございましたら、いつでもご遠慮なく「地域医療連携室」へお知らせ下さいますように、お願い申し上げます。

独立行政法人国立病院東佐賀病院地域医療連携室

ご連絡は下記のファックス又は電話をご利用下さい。

代 表：TEL 0942 (94) 2048 内線309

直 通：TEL/FAX 0942 (94) 3748 (FAXは24時間受付)

E-mail：renkei@esaga.hosp.go.jp

<平日/午前8時30分～午後5時15分>

※平日午後5時以降及び土・日・祝祭日受付分は、翌日など出来るだけ早急に返事を送らせていただきます。

行 事 報 告

永年勤続表彰

管理課 鳥巢 満千治

平成22年5月19日(水)15時から会議室にて永年勤続表彰を執り行いました。

この表彰は、永年にわたって国立病院機構(国の期間を含む)の職員として勤務し、勤務成績が良好である職員に対して、国立病院機構表彰規程に基づき実施されるものです。

今回は、20年表彰が6名、30年表彰は5名(定年退職者1名は退職前に既表彰)の方々該当されたところですが、中には、「周囲の人に年齢が予想されるのが嫌だな」と苦笑いで話をされる方もおられました。

よって、表彰該当者の公表は割愛させていただきますが、今後とも健康にご留意され本院の発展のためにお力をいただきますようしくお願い申し上げます。

総合防火訓練について



去る、平成22年7月12日(月)に2病棟を出火想定場所とした総合防火訓練を実施しました。この訓練は、消防法に基づく消防計画により年2回の実施が義務付けられているところです。

残念ながら、当日の天候は雨天であったため、計画していた屋内消火栓からの放水はできず、自衛消防本部及び避難場所の設置については屋内(旧機能訓練棟)に変更しました。

避難訓練に関しては、消防署職員からの指摘事項もなく実施でき、その後の同署員の消火栓操作説明も有意義なものとなりました。

火事の原因は、人的なものもありますが、注意しても防げない落雷等によるものもありますので、万一の場合は、今回の訓練のように落ち着いて迅速かつ適切な行動をお願い致します。



第32回太陽の子サマーキャンプを終えて

指導室 鎌田 彰雄
中野 さやか

太陽の子サマーキャンプは、喘息などの自己管理について学ぶことや、腹式呼吸や乾布摩擦法などを習得すること、集団生活を通じたコミュニケーション能力の向上と社会性の獲得を促すことなどを目的とした小学生などを対象としたキャンプです。

今回は、長崎県の諫早青少年自然の家にて8月8日(日)から8月11日(水)の3泊4日で実施しました。参加された方は19名で、そのうちリピーターは13名でした。中には6年連続で参加された方もあり、毎年楽しみにされていることが伺えました。

中には喘息の他にもアレルギーやアトピー性皮膚炎など様々な疾患の子ども達もいて、DrやNsなどのケアの下でキャンプに参加して頂きました。

さらに、キャンプを支えて下さっているボランティアの学生さんが西九州大学の栄養科や福祉科から20名、日本赤十字九州国際看護大学から3名参加され、プログラムを考えたり子ども達と共に過ごしたりといったサポートを中心となって行って頂きました。

総勢50名程で迎えたキャンプでは、身体トレーニングやレクリエーション、沢歩き、ナイトハイク、野外炊飯、キャンプファイヤーなどを行いました。

沢登りでは、朝から雷注意報が出て予定していた沢登りは中止となり、体育館でゲームを行いました。しかし、子どもたちは沢登りを楽しみにしており、天候が回復したので午後から近くの沢に行くことが出来ました。足元の悪く、一歩一歩確かめるように全身ずぶ濡れになりながら、怪我もなく歩くことが出来て達成感を感じることが出来たように思いました。

また、野外炊飯では各グループでカレーを作りました。薪を割ったり火を起こしたり、野菜を切ったりと、様々な作業を協力して行うことでグループの結束も深まったように感じました。中には焦げたご飯や大きさの違うニンジンなどもありましたが、出来上がったカレーを食べて「お店よりおいしい!!」と笑顔で話す姿も見られました。食べ終わった後の片付けになると、一生懸命作業をしている子と飽きて遊んでいる子が居て、子ども達同士で「片づけてよ～」と声を掛け合う様子が微笑ましかったです。

自然の家の食事はバイキング形式となっており、始めはお皿に山盛りになり、野菜を全く食べなかった子どももいましたが、学生さんや子ども達同士の声かけで段々と自分が食べられる量を考えて盛り付けたり、少しでも野菜を食べたりといった変化を感じました。

キャンプ最後のイベントであるキャンプファイヤーは夕立ちで中止となり、キャンドルの集いに変更となりました。子どもたちは残念がっていましたが、学生さん達の劇を見たりみんなで歌ったり踊ったりと、キャンドルの明かりの中で楽しむことが出来ました。

今回のキャンプはあまり天候には恵まれませんでしたが、子どもたちは発作や怪我もなく4日間の日程を無事に過ごすことが出来ました。

たくさんの友達や学生さん達と共に過ごすことによって、それぞれの嬉しい一面や優しい一面なども感じる事ができ、私たちスタッフも多くのパワーをもらっていたように思います。

太陽の子サマーキャンプは多くの皆様によって支えられて実施させて頂いております。来年もたくさんの子と出会えることを願っています。



人事異動

personnel changes

◆転入者・採用者等

日付	職名	氏名	備考	日付	職名	氏名	備考
H22.4.12	看護師(臨任)	毛利 久美	採用	H22.7.21	看護助手(非)	池上 郁弥	採用
H22.4.22	看護師(非)	大藪 あずさ	採用	H22.8.1	栄養士	富安 祐美	復職
H22.7.1	経営企画室長	西尾 英高	昇任	H22.8.6	調理助手(非)	大隈 智恵子	採用
H22.7.1	契約係長	亀之園 照彦	配置換	H22.9.1	看護師	用松 直子	復職
H22.7.12	看護助手(非)	島添 宣子	採用				

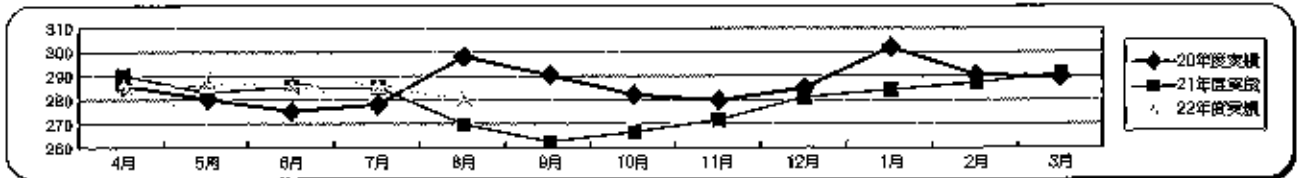
◆転出者・退職者

日付	職名	氏名	備考	日付	職名	氏名	備考
H22.7.1	経営企画室長	柳橋 勝也	配置換	H22.7.31	看護師(非)	柴田 智恵	退職
H22.7.1	契約係長	副島 一隆	配置換	H22.7.31	栄養士(臨任)	野中 千尋	期間満了
H22.7.31	看護師	入江 なぎさ	退職	H22.7.31	看護助手(非)	島添 宣子	退職
H22.7.31	看護師	山口 理紗	退職	H22.7.31	調理助手(非)	三宅 千鶴	退職
H22.7.31	看護師	上村 礼子	退職				

医事統計

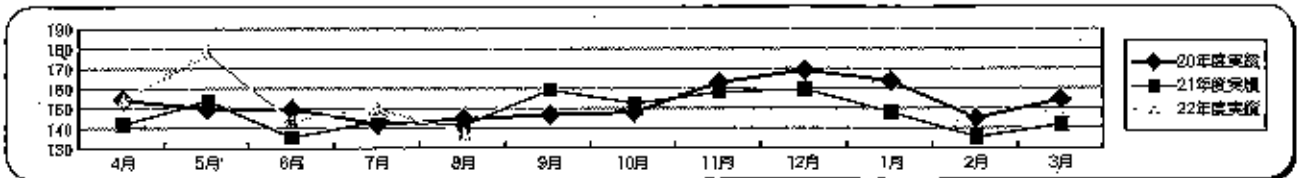
経営企画室

1日平均入院患者数



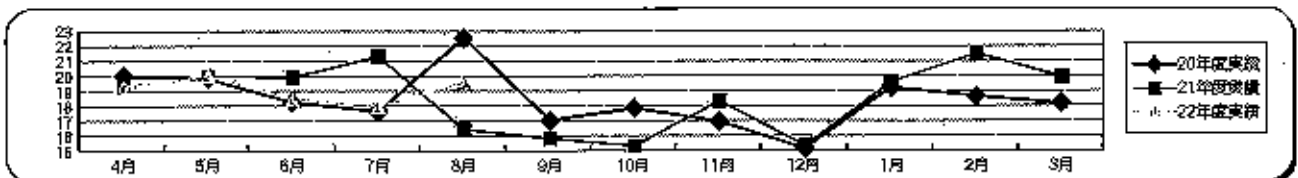
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
20年度実績	286.6	280.7	275.8	278.5	298.6	290.8	282.5	280.2	285.3	302.5	290.9	289.9	286.9
21年度実績	291.1	283.7	286.5	285.9	270.5	263.2	267.2	272.3	281.7	285.0	287.9	291.8	280.5
22年度実績	286.5	287.3	286.3	286.5	280.5								

1日平均外来患者数



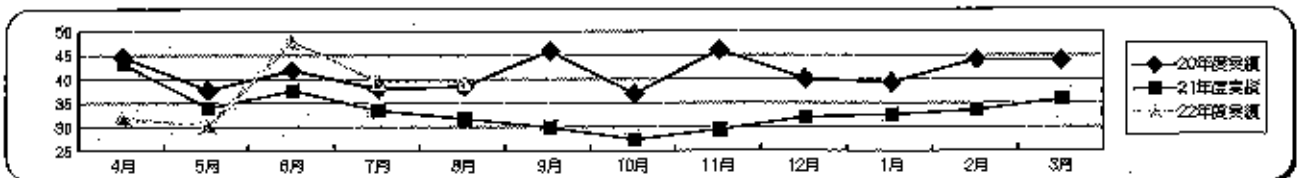
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
20年度実績	154.9	150.1	150.1	142.6	145.2	147.3	148.4	163.4	169.6	164.2	145.4	154.8	153.0
21年度実績	142.8	154.6	136.0	144.4	142.3	160.1	153.2	158.8	160.3	148.8	136.1	142.3	148.0
22年度実績	154.2	178.1	144.3	150.0	138.3								

平均在院日数【一般病床(重・亜急性を除く)】



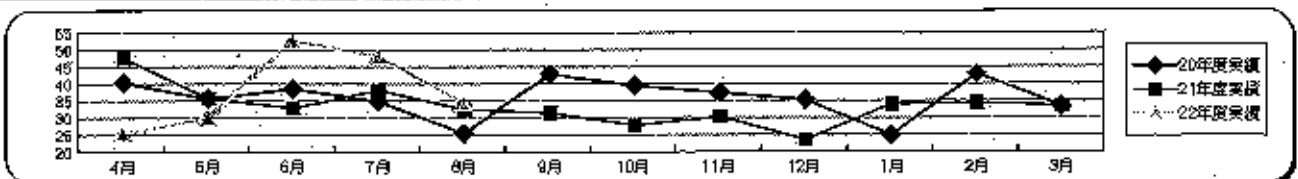
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
20年度実績	20.1	19.9	18.3	17.7	22.6	17.1	17.9	17.0	15.2	19.3	18.7	18.2	18.4
21年度実績	19.4	20.1	20.0	21.4	16.5	15.9	15.4	18.4	15.4	19.7	21.6	20.0	18.6
22年度実績	19.4	20.1	18.5	18.0	19.6								

紹介率



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
20年度実績	44.8	37.9	42.0	38.1	38.6	46.1	37.0	46.2	40.2	39.4	44.3	44.0	41.4
21年度実績	43.4	34.2	37.8	33.6	31.9	30.1	27.5	29.6	32.2	32.7	33.7	36.0	33.3
22年度実績	31.8	30.3	48.0	39.5	39.5								

逆紹介率



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
20年度実績	40.5	35.7	38.7	35.0	25.6	43.0	39.6	37.5	35.4	25.1	43.1	33.5	35.7
21年度実績	47.8	35.8	33.0	38.3	32.6	31.6	27.9	30.4	23.7	34.2	34.6	33.5	33.2
22年度実績	25.3	29.9	52.7	48.0	34.4								

外来診療担当医表



独立行政法人国民医療機構

東佐賀病院

FAX 0942-94-3137

http://www.higashisaga-hosp.jp

(受付時間) 月曜日～金曜日

新患/8:30から11:30

再来/8:30から11:30

※急患はこの限りではありません

小児科は午後も診療を行います。

13:00～16:30 (月、金)

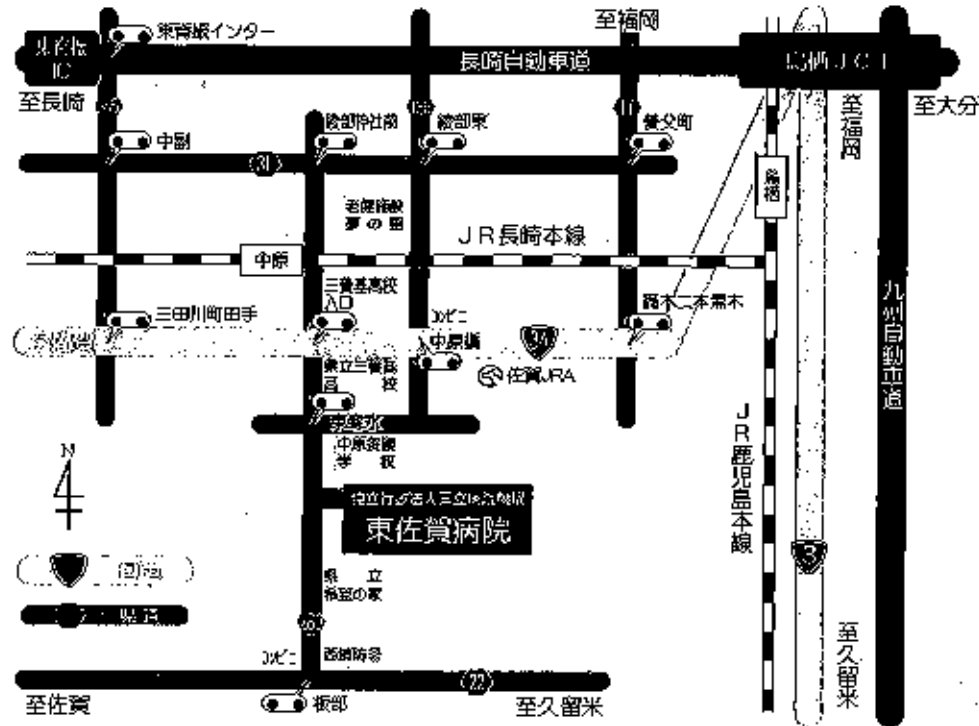
14:00～16:30 (火、水、木)

《平成22年9月1日》

科 目		月	火	水	木	金		
内 科	新 患	貞松 篤	小江 俊行	大井 順二	犬山 正仁	千布 節(第1,3,5) 永田 剛(第2,4)		
	再 来	呼 吸 器	千布 節	千布 節	小江 俊行 犬山 正仁	小江 俊行	犬山 正仁 (第2,4)	
		消 化 器		大井 順二		大井 順二		
		循 環 器	永田 剛	貞松 篤	貞松 篤	永田 剛	安川 秀雄	
		糖尿病・内分泌	今村 洋一	今村 洋一	今村 洋一	今村 洋一	重本 里美	
外 科	消化器・呼吸器	北島 吉彦 松倉 史朗	辻 博治 北島 吉彦	松倉 史朗 辻 博治	辻 博治 北島 吉彦	松倉 史朗 辻 博治		
	乳 腺 外 科					北島 吉彦 松倉 史朗 (午後1:30～予約制)		
小 児 科	一 般	午前	荒牧 修一	荒木 則子	富永 薫	荒牧 修一	富永 薫	
	一 般		久田 直樹	久田 直樹	荒牧 修一	沖 眞一郎	久田 直樹	
	専 門	午後	心身症	久田 直樹	久田 直樹	荒牧 修一	沖 眞一郎	久田 直樹
			アレルギー	久田 直樹				久田 直樹
			夜尿症			荒牧 修一		
			神 経			金子 美香 (午後1:30～4:00)		
整 形 外 科	一 般	釘本 康孝 高山 剛	釘本 康孝 上通由紀子	高山 剛 上通由紀子	釘本 康孝 上通由紀子	高山 剛 上通由紀子		
	専 門	骨粗しょう症	釘本 康孝					
		関 節				釘本 康孝		
		形 成		陣内 卓雄 (午後2:00～5:00)				
放 射 線 科		牛見 陽	牛見 陽	牛見 陽	牛見 陽	牛見 陽		
消化器内視鏡		大井 順二			松倉 史朗	大井 順二		
呼吸器内視鏡				辻 博治				
心 工 口				永田 剛				
眼 科				午後	午後			

- 栄養相談は、月曜日～金曜日まで毎日行っています。
- 院外からのCT申込は直接、放射線科に連絡ください。(TEL 0942-94-2048 内線249)
- 小児アレルギー外来は、小児の喘息、アレルギー性鼻炎やアトピーなどの診察、相談を行っています。
- 小児神経外来は、予約制ですので事前に小児科外来へご予約下さい。
- 歯科、皮膚科、心療内科は入院のみ行っています。
- 金曜日の乳腺外来は、予約制ですので事前に外科外来へご予約下さい。

病院アクセスマップ



1. JR長崎本線普通列車「中原駅」下車。
南へ徒歩15分(1.4km)
●鳥栖駅～中原駅間 約9分
●佐賀駅～中原駅間 約17分
2. 西鉄バス [西鉄久留米]～[鳥栖駅]間
(あやべ経由41番)の「東佐賀病院前」にて下車。
●西鉄久留米より 約30分
●JR久留米より 約20分
●JR鳥栖より 約30分
3. 九州自動車道及び長崎自動車道
●鳥栖インターより(国道34号線経由) 約30分
●東背振インターより(国道31号線経由) 約20分

講習会・研修会・勉強会等の利用に『地域医療研修センター』をご利用下さい。

● 申し込み・お問い合わせ先 ●
東佐賀病院
 管理課庶務係 **☎0942(94)2048**
 (内線333又は219)

お詫び

前号(2010年5月 春季号 Vol.27)における「退職者・転出者挨拶」を掲載するにあたり下記のとおり誤記がありましたのでお知らせします。ご本人様、ご本人に関係する皆様には大変ご迷惑をおかけしまして誠に申し訳ございません。ここに深くお詫び申し上げ下記のとおり訂正させていただきます。

誤：看護助手 今村しづ子

正：看護師 今村しづ子

編集後記

この夏は記録的猛暑で温度上がり過ぎ、冷たいものの飲み過ぎ、クーラーに頼り過ぎ、-----〇〇過ぎの時期がやっとなおさようです。

読書の秋、芸術の秋、運動の秋、食欲の秋と色々形容されますが、自分自身で“〇〇の秋”というテーマをあげてみるとすれば何であろうか。

22年度の折り返し、前期の諸々の検証から、あれもしないとこれもしてあかないと考えることばかり。“奮闘の秋”として自分を奮い立たせ、病院目標、部門目標、自己の目標達成のため頑張ろう。あせり過ぎないように。(編集一委員)